（案の４）

資料２

地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所第三期中期目標（素案）に係る評価委員会意見への対応状況

※評価委員会でいただいたご意見については検討を行い、反映可能なものは素案に反映しています。反映していないご意見についても、今後の取組や計画の運用に当たり参考にいたします。

第三期中期目標（素案たたき台） ※令和８年６月 12 日 第１回評価委員会時点	**第三期中期目標（素案）**	**修正意見等**	**対応状況**
前文 （県立産業技術総合研究所の役割） 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所（以下「ＫＩＳＴＥＣ」という。）は、県内企業を中心とする産業界から信頼される試験研究機関として、イノベーションの創出を支援し、県内産業と科学技術の振興を図ることにより、豊かで質の高い県民生活の実現と地域経済の発展に貢献するとともに、大学や他機関と連携し、基礎研究から製品化まで一貫した企業支援を行う企業支援ネットワークの中心的機関としての役割を担っている。 （第二期中期目標期間の評価） ＫＩＳＴＥＣは、第二期の中期目標期間（令和４年度から令和８年度まで）に、「研究開発」「技術支援」「事業化支援」「人材育成」「連携交流」の５つの柱である各事業において、着実な成果を残すとともに、脱炭素社会の実現や、急速な産業構造の変化等、社会課題の解決に向けた、総合的な企業支援に積極的に取り組んだ。 また、組織の適応力を向上させることにより、経営資源の有効な活用、拠点の機能強化が進み、効果的、効率的な組織運営体制を構築した。さらに、経営努力による収入を活用し設備機器を更新するなど、常にサービスの向上に努めることにより、一層強固で安定した経営基盤を確立したものと評価している。 （社会状況） 不確実性の増す世界情勢により、地政学的リスクは一層高まり、物資不足、物価高騰をはじめとした様々な問題が長期化、複雑化してきている。その結果、製造業を中心に、サプライチェーンの再構築や事業構造の転換など、外部環境の変化への柔軟な対応が必要であることから、求められる研究開発やイノベーション等のあり方も大きな転換点を迎えている。 また、出生数の減少に伴い、生産年齢人口が縮小することに加えて、労働時間の減少、働き方の多様化などによる人手不足は、社会全体における大きな課題である。 さらに、求められる技術やビジネスモデルの変化に対応するため、従業員の能力を再開発するリスキリングも必要となっている。こうし	前文 （県立産業技術総合研究所の役割） 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所（以下「ＫＩＳＴＥＣ」という。）は、県内企業を中心とする産業界から信頼される試験研究機関として、イノベーションの創出を支援し、県内産業と科学技術の振興を図ることにより、豊かで質の高い県民生活の実現と地域経済の発展に貢献するとともに、大学や他機関と連携し、基礎研究から事業化まで一貫した企業支援を行う企業支援ネットワークの中心的機関としての役割を担っている。 （第二期中期目標期間の評価） ＫＩＳＴＥＣは、第二期の中期目標期間（令和４年度から令和８年度まで）に、「研究開発」「技術支援」「事業化支援」「人材育成」「連携交流」の５つの柱である各事業において、着実な成果を残すとともに、脱炭素社会の実現や、急速な産業構造の変化等、社会課題の解決に向けた、総合的な企業支援に積極的に取り組んだ。 また、組織の適応力を向上させることにより、経営資源の有効な活用、拠点の機能強化が進み、効果的、効率的な組織運営体制を構築した。さらに、経営努力による収入を活用し設備機器を更新するなど、常にサービスの向上に努めることにより、一層強固で安定した経営基盤を確立したものと評価している。 （社会状況） 不確実性の増す世界情勢により、地政学的リスクは一層高まり、物資不足、物価高騰をはじめとした様々な問題が長期化、複雑化してきている。その結果、製造業を中心に、サプライチェーンの再構築や事業構造の転換、製造基盤の強化など、外部環境の変化への柔軟な対応や求められる研究開発やイノベーション等のあり方も大きな転換点を迎えている。 加えて、生物多様性の保全や回復など、持続可能な社会の実現に向けた取組も進められており、産業を取り巻く環境はより多様化している。 また、出生数の減少に伴い、生産年齢人口が縮小することに加えて、労働時間の減少、働き方の多様化などによる人手不足は、社会全体における大きな課題である。 さらに、求められる技術やビジネスモデルの変化に対応するため、従業員の能力を再開発するリスキリングも必要となっている。こうし	**【県修正】** 素案全体で文言を「基礎研究から事業化」に統一 **【評価委員会意見】** サプライチェーンに加え、材料・技術の国産化など具体的な課題も検討すべきである。 **【評価委員会意見】** 生物多様性、ネイチャーポジティブなども含め、産業をもう少し広く捉えてもよい。	（記述修正） （意見を踏まえ記述に反映） （意見を踏まえ記述に反映）

第三期中期目標（素案たたき台） ※令和８年６月 12 日 第１回評価委員会時点	第三期中期目標（素案）	修正意見等	対応状況
た中、多様な社会課題の解決の切り札と期待されているものが、ＡＩ技術である。目覚ましい勢いで進化しているこのＡＩ技術は、新たな職業や柔軟な働き方を生み出し、社会全体に新しい可能性をもたらすものである。そのため、今後はＡＩが生み出す情報を正しく理解するとともに、このＡＩ技術をどのように活用していくかが、大変重要となっている。	た中、多様な社会課題の解決の切り札と期待されているものが、ＡＩ技術である。目覚ましい勢いで進化しているこのＡＩ技術は、新たな産業を創出し、経済成長と社会全体の持続的な発展を支える重要な技術として大きな可能性を有している。また、ＡＩとロボット技術の融合など、新たな技術の進展も見込まれている。そのため、今後はＡＩが生み出す情報を正しく理解するとともに、新たな発想や価値の創造を支える手段として、ＡＩ技術を有効に活用していくことが大変重要となっている。	**【評価委員会意見】** フィジカルＡＩ等の実用化を見据え今後５年間を見通した検討が必要である。 **【評価委員会意見】** 「ＡＩを使いこなす」など、ＡＩをポジティブに捉えた表現がよい。	（意見を踏まえ記述に反映） （意見を踏まえ記述に反映）
（第三期中期目標期間に向けた期待） ＫＩＳＴＥＣは、これまで公設試験研究機関としての基本的な役割を確実に果たすとともに、基礎研究から製品化までの一連の企業支援を行うことにより、県内産業の振興と豊かで質の高い県民生活の実現に積極的に取り組んできた。 第三期中期目標期間においては、これまでの取組を一層充実させるとともに、脱炭素化への対応、労働力不足、デジタル格差の拡大、国際競争力の低下等、社会を取り巻く課題の解決に資する研究開発などを一層推し進め、さらに新たな成長産業の創出、育成に向けた支援についても、積極的に取り組んでいくことを期待する。 また、基礎研究や研究開発等で得られた新たな知見を、社会に実装させることによって、県民へ還元することを意識した取組にも期待する。	**（第三期中期目標期間に向けた期待）** ＫＩＳＴＥＣは、これまで技術相談や試験計測など公設試験研究機関としての基本的な役割を確実に果たすとともに、基礎研究から事業化までの一連の企業支援を行うことにより、県内産業の振興と豊かで質の高い県民生活の実現に積極的に取り組んできた。 第三期中期目標期間においては、これまでの取組を一層充実させるとともに、脱炭素化への対応、労働力不足、デジタル格差の拡大、国際競争力の低下等、社会を取り巻く課題の解決に資する研究開発などを一層推し進め、さらに新たな成長産業の創出、育成に向けた支援についても、積極的に取り組んでいくことを期待する。 また、基礎研究や研究開発等で得られた新たな知見を、社会に実装させることによって、県民へ還元することを意識した取組にも期待する。	**【県修正】** ・公設試験研究機関の基本的な役割に具体例がないため、明確になるよう追記（第二期と同じ記載） ・素案全体で文言を「基礎研究から事業化」に統一	（記述修正）
（第三期中期目標期間に向けて） 本県は首都圏の一角を担い、人口約920万人を有する日本を代表する産業・経済の中心地である。製造業、情報通信業、サービス業が発展し、大企業の本社や研究施設が集積する。特に、電機・電子、化学、自動車を中心に産業基盤が構築されてきたが、近年では医療・バイオ、環境分野の産業集積も急速に進み、宇宙関連産業の成長も見込まれる。一方、少子高齢化の進展により労働力不足や福祉拡充は喫緊の課題であり、デジタル技術等を活用したイノベーションによる効率化が重要である。 今後は、めまぐるしく変化する時代への対応が一層求められることから、更なる研究力の向上、試験機能の強化、さらには、利用者目線に立った課題解決能力の拡充が必要となる。そのため、短期的な事業の運営ではなく、組織の持続的な成長を目指した経営に取り組むこととする。 ＫＩＳＴＥＣは、本県の科学技術政策の基本的な方向性を示す「神奈川県科学技術イノベーション政策大綱」の一翼を担うとともに、県政の基本理念である「Vibrant INOCHI」の実現に貢献することのでき	**（第三期中期目標期間の方向性）** 本県は首都圏の一角を担い、人口約920万人を有する日本を代表する産業・経済の中心地である。製造業、情報通信業、サービス業が発展し、大企業の本社や研究施設が集積する。特に、電機・電子、化学、自動車を中心に産業基盤が構築されてきたが、近年では医療・バイオ、環境分野の産業集積も急速に進み、宇宙関連産業の成長も見込まれる。一方、少子高齢化の進行により労働力不足や福祉拡充は喫緊の課題であり、デジタル技術等を活用したイノベーションによる効率化が重要である。 今後は、めまぐるしく変化する時代への対応が一層求められることから、更なる研究力の向上、試験機能の強化、さらには、利用者目線に立った課題解決能力の拡充が必要となる。そのため、短期的な事業の運営ではなく、組織の持続的な成長を目指した経営に取り組むこととする。 ＫＩＳＴＥＣは、本県の科学技術政策の基本的な方向性を示す「神奈川県科学技術イノベーション政策大綱」の一翼を担うとともに、県政の基本理念である「Vibrant INOCHI」の実現に貢献することのでき	**【評価委員会意見】** 「第三期中期目標期間に向けた期待」と「第三期中期目標期間に向けて」は整理した方が分かりやすい。	（意見を踏まえ修正） 「KISTECへの期待」と「第三期中期目標策定の方向性」を示すもので、役割が異なるため、２つの柱立てのまま、タイトルの「向けて」を「方向性」に修正し重複感をなくした。 （記述修正）

第三期中期目標（素案たたき台） ※令和８年６月 12 日 第１回評価委員会時点	第三期中期目標（素案）	修正意見等	対応状況
る機関である。 こうした役割を踏まえ、複雑・高度化が進む社会課題の解決に突き進むイノベーション創出支援機関として、一層成長することができるよう、第三期の中期目標を定める。 **第１　中期目標の期間** 令和９年４月１日から令和14年３月31日までの５年間とする。 **第２　住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項** 企業支援ネットワークの中心的機関として、基礎研究や技術開発から事業化までの一貫した企業支援に取り組むとともに、人材育成、連携交流活動等を通じて、県内産業と科学技術の振興及び豊かで質の高い県民生活の実現を図る。 **１　社会課題の解決を通じた成長産業の創出に繋がる研究開発** 社会においては、カーボンニュートラルの実現に向けて、低環境負荷素材の活用や資源・廃棄物の削減等による循環型社会・持続可能な社会の形成が不可欠であり、これに資する再資源化技術、再生可能エネルギー技術や持続可能なエネルギー循環技術などの研究が必要となる。 一方、デジタル化が加速する中、ＡＩ、IoT、ビッグデータの活用技術などが産業の競争力を左右することになる。加えて、量子技術等も、幅広い分野で技術革新をもたらす次世代の基盤技術として期待されている。 このほか、日本は「超高齢社会」を上回る「重老齢社会」と呼ばれるような社会構造となることから、その対応として、医療・福祉技術、ロボット技術の進化が一層求められている。 そのため、こうした社会課題の解決に資する研究開発を推進し、持続可能な社会の構築に貢献するとともに、成長産業を創出し、産業競争力の強化を図る。また、企業や他機関と連携した研究開発を強化する。 さらに、ベンチャー企業の創出に向けた研究開発支援を継続し、イノベーション・エコシステムの構築に取り組むとともに、創出した研究成果の社会実装を目指す。 **２　県内企業等の競争力の強化を図る技術支援** 県内企業等の技術課題の解決に係る依頼に対し、ＫＩＳＴＥＣが	る機関である。 こうした役割を踏まえ、複雑・高度化が進む社会課題の解決に突き進むイノベーション創出支援機関として、一層成長することができるよう、第三期の中期目標を定める。 **第１　中期目標の期間** 令和９年４月１日から令和14年３月31日までの５年間とする。 **第２　住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項** 企業支援ネットワークの中心的機関として、基礎研究や技術開発から事業化までの一貫した企業支援に取り組むとともに、人材育成、連携交流活動等を通じて、県内産業と科学技術の振興及び豊かで質の高い県民生活の実現を図る。 **１　社会課題の解決を通じた成長産業の創出に繋がる研究開発** 社会においては、カーボンニュートラルの実現に向けて、低環境負荷素材の活用や資源・廃棄物の削減等による循環型社会・持続可能な社会の形成が不可欠であり、これに資する再資源化技術、再生可能エネルギー技術や持続可能なエネルギー循環技術などの研究が必要となる。 一方、デジタル化が加速する中、ＡＩ、IoT、ビッグデータの活用技術などが産業の競争力を左右することになる。加えて、量子技術等も、幅広い分野で技術革新をもたらす次世代の基盤技術として期待されている。 このほか、日本は人生100歳時代を迎え、誰もが生涯にわたり安心して暮らし、活躍できる社会の実現に向けて、医療・福祉技術、ロボット技術の進化が一層求められている。 そのため、こうした社会課題の解決に資する研究開発を推進するため、企業や大学、研究機関等との連携を強化するとともに、研究成果の社会実装や企業の研究開発を支援し、持続可能な社会の構築や成長産業の創出に貢献する。 さらに、ベンチャー企業の創出に向けた研究開発支援を継続し、イノベーション・エコシステムの構築に取り組むとともに、創出した研究成果の社会実装を促進する。 **２　県内企業等の競争力の強化を図る技術支援** 県内企業等の技術課題の解決に係る依頼に対し、ＫＩＳＴＥＣが	**【評価委員会意見】** 「重老齢社会」はネガティブな印象を与えるため、前向きな表現にした方がよい。 **【評価委員会意見】** ＫＩＳＴＥＣが主体となって行うような表現になっている。応援していく、サポートしていくという言い方にした方がよいのではないか。	（意見を踏まえ記述に反映） （意見を踏まえ記述に反映）

第三期中期目標（素案たたき台） ※令和８年６月 12 日 第１回評価委員会時点	第三期中期目標（素案）	修正意見等	対応状況
もつノウハウや設備機器などの経営資源を最大限活用することで、企業の競争力を高めていく。 特に、将来の発展が予想される技術分野に対しての支援を強化しつつ、成果の県民への還元を意識した支援を進めていく。 また、近隣都県の試験研究機関等との技術支援に係る連携交流活動を強化することにより、企業支援の充実を図る。さらに、付加価値の高いものづくりを支援するため、県内企業のニーズをとらえた試験計測環境を整備し、信頼性のある精度の高い試験結果を提供していく。また、デジタル化を進め、利用者の利便性を一層高めつつ、蓄積したデータを精査、活用し、能動的な提案や相談対応の強化により利用促進を図る。 こうした取組を通して、単なる試験結果提供に留まらない、総合的なソリューションにつなげ、県内企業等の競争力向上を目指す。	もつノウハウや設備機器などの経営資源を最大限活用することで、企業の競争力を高めていく。 特に、将来の発展が予想される技術分野に対しての支援を強化しつつ、成果の県民への還元を意識した支援を進めていく。 また、近隣都県の試験研究機関等との技術支援に係る連携交流活動を強化することにより、企業支援の充実を図る。さらに、付加価値の高いものづくりを支援するため、県内企業のニーズをとらえた試験計測環境を整備し、信頼性のある精度の高い試験結果を提供していく。また、デジタル化を進め、利用者の利便性を一層高めつつ、蓄積したデータを精査、活用し、能動的な提案や相談対応の強化により利用促進を図る。 こうした取組を通して、単なる試験結果提供に留まらない、総合的なソリューションにつなげ、県内企業等の競争力向上を目指す。		
３　県内企業等の製品及びサービスの開発並びにその事業化に係る支援 県内企業等による新たな製品やサービスの開発において、企画開発から技術・デザイン・販路開拓、知的財産権の活用まで、一貫した支援を総合的に行うことにより、その事業化を促進する。 特に、新たな成長産業や社会課題の解決、県民生活の向上に資する産業分野に対する事業化支援へも積極的に取り組んでいく。 さらに、企業等の課題に応じて最適な支援を提案するコーディネート機能を強化するため、経営支援機関及び技術支援機関との連携を一層強化する。これにより、技術的なサポートに留まらず、外部専門家と連携した総合的かつ一貫した支援を継続的に実施することで、県内企業等の事業化を促進する。	**３　県内企業等の製品及びサービスの開発並びにその事業化に係る支援** 県内企業等による新たな製品やサービスの開発において、企画開発から技術・デザイン・販路開拓、知的財産権の活用まで、一貫した支援を総合的に行うことにより、その事業化を促進する。 特に、新たな成長産業や社会課題の解決、県民生活の向上に資する産業分野に対する事業化支援へも積極的に取り組んでいく。 さらに、企業等の課題に応じて最適な支援を提案するコーディネート機能を強化するため、経営支援機関及び技術支援機関との連携を一層強化する。これにより、技術的なサポートに留まらず、外部専門家と連携した総合的かつ一貫した支援を継続的に実施することで、県内企業等の新たな製品やサービスの事業化を促進する。	**【県修正】** ・県内企業等の事業化では意味が通らないため。	（記述修正）
４　多様な技術や社会変化に適応できる人材の育成 デジタル化や脱炭素化等による産業構造の転換が進む中において、企業においては、多様な人材を育成し、新たな価値を生み出すことのできる体制を構築することが重要である。 そのため、ニーズの高いデジタルリテラシーや情報処理能力等といった専門分野のみならず、多様な技術や社会課題の変化に適応できる人材を育成する。 多様な人材を育成するために、最新のトレンドやニーズにあった実践的な研修を実施するなど、産学官での連携も含めた研修体制を整備していく。 また、企業が進める継続的な学び直し（リスキリング）を促進	**４　多様な技術や社会変化に適応できる人材の育成** デジタル化や脱炭素化等による産業構造の転換が進む中において、企業においては、多様な人材を育成し、新たな価値を生み出すことのできる体制を構築することが重要である。 そのため、ニーズの高いデジタルリテラシーや情報処理能力等といった専門分野のみならず、ＡＩをはじめとするデジタル技術を活用し、多様な技術や社会課題の変化に適応できる人材の育成を支援する。 多様な人材の育成に貢献するために、最新のトレンドやニーズにあった実践的な研修を実施するなど、産学官での連携も含めた研修体制を整備していく。 また、企業が進める継続的な学び直し（リスキリング）を促進	**【評価委員会意見】** ＡＩ人材の需給ギャップ解決に向け、ＫＩＳＴＥＣならではの取組ができるとよい。 **【評価委員会意見】** 「人材を育成する」ではなく、「育成に貢献する」「育成を効果的にする」	（意見を踏まえ記述に反映） （意見を踏まえ記述に反映）

第三期中期目標（素案たたき台） ※令和８年６月 12 日 第１回評価委員会時点	第三期中期目標（素案）	修正意見等	対応状況
し、県内企業等の競争力の強化を図る。 さらに、幅広い年代を対象として、科学技術への興味や理解を高める活動に取り組み、次世代の技術人材としてイノベーションを担うような人材を育成する。	し、県内企業等の競争力の強化を図る。 さらに、幅広い年代を対象として科学技術への興味や理解を高める活動に取り組むことで、イノベーションを担うような次世代の技術人材の育成につなげる。	などの表現がよい。 **【評価委員会意見】** 社会課題の解決を起点としない取組や、夢のある技術・ものづくりの発信も重要である。	（意見を踏まえ記述に反映）
第３　業務運営の改善及び効率化に関する事項 社会経済情勢や中小企業のニーズが目まぐるしく変化していく中で、求められる研究開発や技術支援などを行っていくためには、適切な組織運営を行っていく必要がある。さらなるデジタル化を進めるなど、必要な改革を行い、柔軟で機動性の高い組織体制を整備することで産業構造の変化に対応できる運営体制を構築する。	**第３　業務運営の改善及び効率化に関する事項** 社会経済情勢や中小企業のニーズが目まぐるしく変化していく中で、求められる研究開発や技術支援などを行っていくためには、適切な組織運営を行っていく必要がある。さらなるデジタル化を進めるなど、必要な改革を行い、柔軟で機動性の高い組織体制を整備することで産業構造の変化に対応できる運営体制を構築する。		
１　効果的・効率的な組織運営 基礎研究から事業化まで一貫した企業支援がより複雑化、高度化する中で、収支状況の適切な管理と情報共有を通し、限られた予算の配分と人員の適切な配置により、効果的・効率的な利用者サービスを継続的に提供できるよう組織運営を行う。 拠点についても、機能の整理を行いつつ、相互に連携した効果的な組織体制を構築する。	**１　効果的・効率的な組織運営** 基礎研究から事業化まで一貫した企業支援がより複雑化、高度化する中で、収支状況の適切な管理と情報共有を通し、限られた予算の配分と人員の適切な配置により、効果的・効率的な利用者サービスを継続的に提供できるよう組織運営を行う。 拠点についても、機能の整理を行いつつ、相互に連携した効果的な組織体制を構築する。		
２　効果的・効率的な人事制度の運用 人事制度について、評価制度の適切な運用を進めることに加えて、効果的な研修や職務を通じた人材育成を図るとともに、一人一人の職員の意欲と能力の向上を図る。 採用については、多様な時期での採用など、様々な採用方法を検討し、優秀な人材の確保に努め、人員不足への対応や利用者のサービス向上につなげる。 また、個人の価値観やライフスタイルの多様化が進む中、子育て、介護などに関わる職員のみならず、組織全体として様々な働き方が可能となるような職場環境整備を推進する。	**２　効果的・効率的な人事制度の運用** 人事制度について、評価制度の適切な運用を進めることに加えて、効果的な研修や職務を通じた人材育成を図るとともに、一人一人の職員の意欲と能力の向上を図る。 採用については、技術革新の進展等に対応できるよう、即戦力となる専門人材の採用など柔軟な採用方法を検討するとともに、優秀な人材の確保に努め、人員不足への対応や利用者のサービス向上につなげる。 また、個人の価値観やライフスタイルの多様化が進む中、仕事と育児・介護を両立しやすい職場環境を整備するとともに、高年齢の職員が能力と意欲に応じて活躍できるような職場環境づくりを推進する。	**【評価委員会意見】** 即戦力人材の確保に向け、柔軟な人事制度について検討する内容を盛り込んだ方がよい。 **【評価委員会意見】** 高齢化社会への対応として、誰もがここで働けるようにしていく視点や、対応方法が入っているとよい。	（意見を踏まえ記述に反映） （意見を踏まえ記述に反映）
３　効果的・効率的な業務運営 業務内容を見直すことで、改革を推進し、効果的・効率的な業務運営を行う。 また、業務のデジタル化を進め、関係各所との情報共有や意思決定を迅速化することで、事務処理の効率化や利用者サービスの向上を図る。	**３　効果的・効率的な業務運営** 業務内容を見直すことで、改革を推進し、効果的・効率的な業務運営を行う。 また、業務のデジタル化やＡＩ等のデジタル技術の活用を進め、関係各所との情報共有や意思決定を迅速化することで、事務処理の効率化や利用者サービスの向上を図る。	**【評価委員会意見】** ＫＩＳＴＥＣ自身が生成ＡＩを活用する視点も盛り込んではどうか。	（意見を踏まえ記述に反映）

第三期中期目標（素案たたき台） ※令和８年６月 12 日 第１回評価委員会時点	第三期中期目標（素案）	修正意見等	対応状況
第４　財務内容の改善に関する事項 **１　収入の確保** 技術支援等による収入の強化に取り組み、一定の成果を上げているところであるが、さらに、企業ニーズを把握し、効果的な機器整備を進めるなど、収入の安定化を図るとともに、競争的資金等の外部資金の獲得を進める。 試験計測については、他の公設試験研究機関の動向も注視しつつ、物価高騰などを踏まえた適切な料金設定を行う。 また、企業に対する総合的ソリューション能力を拡充することにより企業のＲ＆Ｄ支援を充実させ、企業の価値創出と収入の増加の両立を目指す。	**第４　財務内容の改善に関する事項** **１　収入の確保** 技術支援等による収入の強化に取り組み、一定の成果を上げているところであるが、さらに、企業ニーズを把握し、効果的な機器整備を進めるなど、収入の安定化を図るとともに、競争的資金等の外部資金の獲得を進める。 試験計測については、他の公設試験研究機関の動向も注目しつつ、物価高騰などを踏まえた適切な料金設定を行う。 また、企業に対する総合的ソリューション能力を拡充することにより企業のＲ＆Ｄ支援を充実させ、企業の価値創出と収入の増加の両立を目指す。		（記述修正）
２　財務運営の効率化 社会情勢の変化に対応した研究開発の推進や、技術支援のための設備投資等に柔軟に対応するため、経費節減を図りつつ、剰余金やその他の経営資源の有効活用を行う。また、出資業務を行う際は、その適切な執行を徹底する。	**２　財務運営の効率化** 社会情勢の変化に対応した研究開発の推進や、技術支援のための設備投資等に柔軟に対応するため、経費節減を図りつつ、剰余金やその他の経営資源の有効活用を行う。また、出資業務を行う際は、その適切な執行を徹底する。		
第５　その他業務運営に関する重要事項 **１　社会的責任** コンプライアンスについて、職員研修や啓発活動等を通してより一層意識醸成を図り、ＫＩＳＴＥＣ全体の信頼性確保につなげる。 業務を通じて得た技術や新製品のデータ等の法人情報を適切に管理する。併せて、サイバー攻撃などの標的となる可能性もあることから、適切なネットワーク構築と情報セキュリティの強化を通し、信頼性の高い組織運営を行う。 また、県民に開かれた公設試験研究機関として、適切に情報公開を行う。	**第５　その他業務運営に関する重要事項** **１　社会的責任** コンプライアンスについて、職員研修や啓発活動等を通してより一層意識醸成を図り、ＫＩＳＴＥＣ全体の信頼性確保につなげる。 業務を通じて得た技術や新製品のデータ等の法人情報適切に管理する。近年、ＡＩを用いたサイバー攻撃の脅威も増していることから、引き続き適切なネットワーク構築と情報セキュリティの強化を行うとともに、変化する脅威に対応できる新たなサイバーセキュリティ対策の検討を進め、信頼性の高い組織運営を行う。 利用者が安全に利用できる環境整備を引き続き行うとともに、職員が安心して働けるように安全衛生に配慮した職場環境の改善に努める。 また、県民に開かれた公設試験研究機関として、適切に情報公開を行う。	**【評価委員会意見】** ＡＩとの融合を踏まえ、サイバーセキュリティ対策を検討し、喫緊の対策を講じるべきである。 **【評価委員会意見】** 安全衛生は組織運営の大前提であり、改善の観点で計画に盛り込むべきである。	（意見を踏まえ記述に反映） （意見を踏まえ記述に反映）
２　施設の長寿命化と設備の有効活用 中長期的な視点に立ち、施設の計画的な整備、修繕に取り組むとともに適切な維持管理を行うことにより施設の長寿命化を図る。 また、産業構造の変化が加速化している中、中小企業等のニーズを適時適切に把握し、限られた財源を有効に活用し、計画的に機器	**２　施設の長寿命化と設備の有効活用** 中長期的な視点に立ち、施設の計画的な整備、修繕に取り組むとともに適切な維持管理を行うことにより施設の長寿命化を図る。 また、産業構造の変化が加速化している中、中小企業等のニーズを適時適切に把握し、限られた財源を有効に活用し、計画的に機器		

第三期中期目標（素案たたき台） ※令和８年６月 12 日 第１回評価委員会時点	第三期中期目標（素案）	修正意見等	対応状況
整備を行うことで、試験計測等のサービス向上を図る。 ３　広報の強化 ＫＩＳＴＥＣの認知度向上や企業の利用拡大を図るため、また県民へ研究成果を一層周知するため、ホームページ等に限らず、常に有効なツールを模索し、適切な広報を行う。	整備を行うことで、試験計測等のサービス向上を図る。 ３　広報の強化 ＫＩＳＴＥＣの認知度向上や企業の利用拡大を図るため、また県民へ研究成果を一層周知するため、ホームページ等に限らず、常に有効なツールを模索し、適切な広報を行う。		